



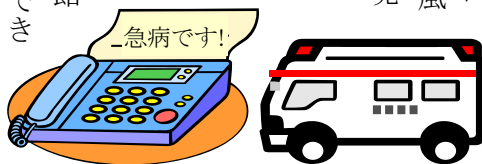
みみよい

【あいさつ】

坪井 順子

恒例の冬のフェスティバル、大勢の方にお越しいただき、ありがとうございます。また。

今年は台風の影響で、JR浅香山駅が水没したり、私の地元では、橋りようが傾き線路が陥没、10日間もの間、電車が不通になりました。台風や豪雨などで防風警報等が発令すると、通訳者の派遣ができなくなり、対象者のみなさまにもご迷惑をおかけいたしました。いつも天気情報を見ながら心苦しい思いでいます。



年末年始、センターは休館です。体調をくずされて我慢できないときは、迷わずファックス119番やメール119番で救急車を呼んでください。必要ときには、「手話通訳者や要約筆記者が必要」と、お伝えください。「命のカード」もご活用ください。

保護者学習会を開催しました



11月25日(土)、今年度2回目の「聞こえにくい・聞こえない子の保護者学習会」を開催しました。

講師は、東京にある福祉型障害児入所施設「金町学園」で児童指導員をしておられ



る森本行雄さん。ろう学校の「寮母」や、国立リハビリテーションのキーパーソン、手話通訳士としても幅広い活動をしておられる方です。「社会に出るまでに身につけておきたいこと」をテーマにお話いただきました。

最初に、テレビの字幕付与の状況から、聴覚障害者を取り巻く社会環境について、問題提起がありました。10年前と比べれば増えたとはいえ、字幕は民法で50%台。NHKも80%台です。手話放送に至っては、総放送の0.1%にも満たない状況。「こんなに遅れていることが悔しい」と、保護者からの声もありました。

そんな中、身に着けたい力は4つ。①自分を客観的に見る力、②相手に合わせるコミュニケーションの力、③日本語力、④社会資源を活用する力。「身に着ける」とは、自然に備わるものではなく、努力して獲得するもの。そのための方法についてもご提案いただきました。人工内耳装用児の保護者からは、「聞こ

える」と「聞こえない」の狭間で揺れる思いも語られました。正解がないから難しい。だから、みんなで学ぶ場・語り合う場が大切だと感じました。3月には交流会を予定しています。ぜひ、ご参加ください。



【メニュー】あるある 「メニュー」店員編

最近のコンビニでは、「レンジで温めますか?」「ポイントカードはお持ちですか?」など、質問や確認の内容が増えてきた。その日の買い物によって内容を想像し、うなずいたりしている。想像は当たったり、当たらないかったりする。



ある日の買い物のこと。お湯を入れたらすぐに食べられるスープを3個まとめてレジに持っていき。きつと「スプーンありますか?」と聞かれるだろう!と構えていたら、店員:「◎△□? *¥」私:「えっ?」

この時、思わず「何?」の手話を出していた私。店員:「(指を見て) 心得たように」

「一本ですね」「おおおおお... (+)」

「何人分になりますか?」

と聞いてきたのか。それは想定外だった。



「みみサロン」を開催しました!

11月のみみサロンは、年6回ある中で一番大きな企画。プラザの体育室で開催しました。

オープニングは、大阪府立堺聴覚支援学校の中学部・音楽部の生徒のみなさん。リハーサル時からとても気合が入っており、繰り返し繰り返し練習をしていました。「ドン! ドン! ドン!」子どもたちの力強い演奏が始まると、一気に体育室の空気が変わりました。

一曲目は「楽走(ラン)」。沖繩の太鼓を使い、掛け声とともに踊りながら、テンポよく太鼓を叩きます。見ているこちらまで思わず身体が動き出しそうでした。二曲目は「三宅(みやけ)」。大きな太鼓の前後にそれぞれ立ち、腕を大きく



回しながら力強く叩きます。最後にピシッと、みんな一斉に演奏を止める姿は、とてもかっこよかったです。聞こえない生徒たち同士で先生方の合図を見たり、仲間同士で目を合わせたり、太鼓の振動を感じながら確認したり、いろいろな工夫も見られました。インタビュで「太鼓をやって良かったことは?」と質問したところ、「数えきれないほど練習をして、みんなで協力しあって一つの曲を最高の曲にできたことが良かった」と答えていたこ

とが、とても印象的でした。

次は手話と音声で絵本の読み聞かせをしている「くるくる」のみなさんにバトンタッチ。一冊目は「シバ犬のチャイ」(著:あおきひろえ・絵:長谷川義史)。シバ犬のチャイの目線で家族や近所のことなどが書かれ、チャイそのものが絵本から飛び出たように、とてもキュートな手話表現をされていて、おもしろく、楽しい絵本でした。二冊目は「じごくのラーメンや」(作:荻田澄子・絵:西村繁男)。題名やとぼけたような絵から、すぐくおもしろそうな雰囲気を感じていたのですが、地獄の様子が具体的に描かれていながらも、その中にユーモアがたくさんあり、一気に地獄の怖いイメージが吹っ飛びました! まさに、てのひらから絵本が飛び出してきたようで、次はどうなるんだろう? 表情や空間がぐるぐると変化する、その表現力の豊かさにみんなひき込まれ、絵本のおはなしが生き生きと「見える」ひとときでした。



絵本の読み聞かせの次はお待ちかねのゲーム! 「いっしょはだめよ」。ん?ん?気になる言葉! 何だろう? テーマは「どうぶつ」。前に出た人たちがそれぞれ自分が考えた動物を身振り手振りや手話などで一斉に表し、「他の人とかぶってしまったら負け。自分ひとりだけだったら勝ち」というゲーム。なんとメダルがもらえるということで、盛り上がりました!

最後は大阪府立大

学手話サークル「亜飛夢」さんの手話劇。タイトルは「明日があるさ」とある小さな銀行のお話」でした。表情豊かに、元氣いっぱい、そしてひとつひとつ丁寧に手話で伝えようとしていて、本当に手話を大切にしているんだなということが感じられ、とても嬉しく思いました。



大阪らしく、吉本新喜劇やお笑い芸人ブルゾンちえみのネタも出てきて、大笑いでした。

「手話の秋を楽しみましょう♪」と題した今回のみみサロン。たくさんの方のご協力をいただき、参加者全員、手話を堪能しました、楽しいひとときをありがとうございました。

「聞こえのセミナー」を開催しました!



毎年、秋のセミナーは、当事者の経験を聞く回です。11月28日は、堺市きこえ支援協会の小村和子さんをお招きし、「聞こえた頃の私と難聴の私」をテーマに講演していただきました。

ご家族の介護を一生懸命しておられた小村さん。聞こえが低下したり、回復したりを繰り返してい

たころの不安や苦しさ、ご家族との行き違いなどを語ってくださいました。参加者から「私もおんなじや」と、思わず声が漏れる場面も。休憩時間にはお隣の方と経験を語り合う姿もありました。

「しんどいのは私だけ」と思っていた方々が同じ気持ちの人に会い、人とのつながりを取り戻すお手伝いができました。そんな思いで始めたセミナーの目的が実現できました。小村さん、参加者のみなさん、ありがとうございました。

地域の方と一緒に：土師小学校区防災訓練



12月3日(日)、土師小学校区で開催された防災訓練に来賓として参加しました。

堺市には、校区ごとに近しい自主防災会が組織されていて、各々の防災会が独自の

取り組みをされていますが、それらの中でも土師校区では特に本格的な防災訓練をされています。当日は朝から、校区の五百人近い方が参加され、いくつものコーナーに分かれて訓練されました。消火器を使つての消火、簡易トイレの組み立て、府立大学が提供した段ボールを活用したベッドや休憩所の組み立て、紙スリッパの折り方、応急手当、けが人の搬送などの訓練があり、ほかにも自衛隊による災害支援の紹介や、消防車の展示なども行われました。土師校区の自治会では、聴覚障害者に限らず、外国人も含めた



地域の言語マイノリティーの方々への支援も視野に入れ、取り組みをされています。そのため、訓練を開始するに先立って行われた開会のあいさつでは、

簡単な手話や、英語・韓国語のできる方、医師・看護師の経験者は防災会に登録してくださいとの呼びかけを行なうとともに、今回は、地域の聴覚障害者が参加されるということで、手話通訳者の紹介等も行われ、地域ぐるみで協力し合っていくという思いを強く感じることのできる訓練でした。災害時には、行政もすぐには動き出せません。命を守るのに必要なのは、まずは地域住民の連携です。こういった取り組みが全市に広がれば、聴覚障害者にとっても大変心強いと感じることのできた一日でした。



障害者週間フエスティバル

12月9日は、堺市立健康福祉プラザの「障害者週間フエスティバル」。センターでは、機器の展示・体験会と、手話体験・絵本の読みかけ会を実施しました。

機器の展示・体験には、富士通 on t e n n a (オンテナ) 開発者の本多さん、ユニバーサルサウンドデザインの石川さんも駆けつけてくださり、来場のみなさんに情報提供していただきました。



小さなコーナーでしたが、「音を感じる」・「テレビの音を聞きやすく」・「会話を聞きやすく」・「言葉を文字にする」とテーマ分けし、

実際に音を聞いたり、感じたりしていただきました。ご自身が難聴の方はもちろん、ご家族に難聴者がおられる方も来てくださり、いろいろなお要望を伺うこともできました。聞こえにくくなっても情報がほしい。だから、テレビが聞こえないと困る。講演会にも行きたい。聞こえにくくなった

親に、大声で話すと、まるで怒っているようになるのがつらい。そんな切実な声も。機器の活用で改善することもあるので、ぜひ、センターの貸出をご利用ください。

午後からの手話体験は、堺市ろうあ者福祉協会と堺手話サークル連絡会の方が協力くださり、冗談も交えながら楽しく教えてくださいました。また、絵本の読み聞かせといえは「くるくる」。今回も魅力たっぷりの手話表現で、みんなを引き付けてくださいました。ありがとうございました！

聞こえをサポートする機器いろいろ



手話奉仕員・通訳者養成講座

ろう者から学ぶ

今年も残り少なくなりました。講座もいよいよ終盤にかかっています。「ろう者の暮らしや思いを知る」講演や地域のろう者との交流会も開かれ、生きた言葉としての手話に触れ合うことができたと思います。今後も引き続き、ろう者の手話とふれあえる場を提供します。年末ですし、お店に行って一杯飲みながらって手もありますね。

要約筆記者養成講座

実技を積み重ね、試験合格を！

「チームワーク」、「ノートテイク」と実習を積み重ね、講座は終盤。今後、学習する「難聴者の心理」で利用者ニーズを再確認し、技術や知識のふりかえりをします。

登録試験は2月。受講生のみなさん、合格目指して頑張ってください。講師・利用者とも応援していますよ！

センターの行事

1月11日(木) 10:00~12:00

「もじサロン」筆談会

1月12日(金) 13:30~16:30

「補聴器相談」 ※予約制

1月20日(土) 14:00~16:00

「みみサロン」

なるほど ザ 日本語!!

2月 3日(土) 14:00~16:00

「聞こえのセミナー」 ※事前申込
難聴と耳鳴りのお話

2月 9日(金) 13:30~16:30

「補聴器相談」 ※予約制

2月17日(土) 14:00~16:00

「もじサロン」

わいわいおしゃべり会

毎週木曜日 12:30~12:45

ミニ手話講習会「手話っぴい」

ビデオライブラリーのおすすめ

「おしえてタモちゃん! ~合理的配慮ってなに?~」

聴覚障害者が実際によく遭遇する問題場面と、その解決のために奮闘する、おなじみ聴覚障害者のタモちゃんこと、田門弁護士が「合理的配慮」をドラマ仕立てでわかりやすく解説してくれます。全国聴覚障害者情報提供施設協議会の制作です。

「THE歴史列伝 ~そして傑作が生まれた~
天下分け目 関ヶ原の戦いスペシャル」

前号に続けて、「THE歴史列伝」シリーズです。豊臣から徳川に。劣勢と思われていた徳川方が、なぜ勝利できたのか。戦国時代の終わりを告げる最後の戦いで。武将同士の様々な駆け引きをご堪能ください。

頑張っています 手話通訳・要約筆記登録者

実施済

登録者合同研修会 10/19

手話通訳者実技研修会(A)11/2 (B・C・D)11/9

要約筆記者実技研修会(手書) 12/2

登録者合同研修会 1/19

「普段のコミュニケーションを見直そう」

手話通訳者実技研修会(A)11/2 (B・C・D)11/9

盲ろう者手引き研修(交流会) 2/14

年末年始休館のお知らせ

12月29日(金)~1月3日(水)

急病のときはFAX119・メール119

または堺市役所当直 233-2800(TEL)へ

事業状況

| | | 手話通訳 | | 要約筆記 | | ライブラリー | |
|-----|------|------|-----|------|-----|----------|-----|
| | | 個人 | 講演 | 個人 | 講演 | 利用者数 | 貸出数 |
| 10月 | 派遣数 | 287件 | 41件 | 10件 | 17件 | 25人 | 61本 |
| | 派遣人数 | 308人 | 89人 | 21人 | 56人 | 新規登録者：3人 | |
| 11月 | 派遣数 | 262件 | 36件 | 11件 | 30件 | 24人 | 61本 |
| | 派遣人数 | 280人 | 85人 | 19人 | 95人 | 新規登録者：0人 | |

